

## アルス国際製靴学校研修体験記（平成24年9月3日～11月23日）

クラウン製靴株式会社 勝間田 大 輔  
ピドックス株式会社 高 田 布由子

### 1. 研修課題

- (1) 靴の構造、靴種、製法の理解
- (2) 靴のパターンメイキング（アップパー、ライニング）の理解
- (3) 靴の企画から生産までの過程、技術の理解
- (4) 革見本市、靴見本市、タンナー、メーカー視察
- (5) イタリア靴専門店、市場動向把握
- (6) 各国研修生との靴に関する情報交換、交流

### 2. 研修内容

#### (1) 授業スケジュール

パターンメイキングコース

期間：9月3日(月)～11月23日(金)全12週間

第1週：理論

第2週：デザイン画作成

第3～11週：靴種に沿ったパターンメイキング

第4週：ミラノコレクション見学

第9週：コンペ用デザイン画作成

第10週：工場見学（タンナー、メーカー計4社）、コンペ中間審査、卒業制作

第12週：卒業試験（実技、筆記、面接）、コンペ表彰式、卒業式、CEO面接

#### (2) 週間スケジュール

月曜日～金曜日

9:00～13:00、14:00～17:00

土曜日、日曜日、祝日

休講

#### (3) 授業の進め方

①授業の進め方は、長期に亘る体系的な研修と反復練習が基礎となっている。

#### ②実技の進め方

・先生が生徒全員を机の周りに集め制作上の注意点を説明しながら型紙を作成していく（PCを使い、スクリーンに写しての説明もあり）

・生徒は、それに倣い各自で型紙を作成していき、完成したものの出来具合を見てもらい必要に応じて提出する。

#### (4) 授業内容

①理論（靴及び靴製法に関するさまざまな知識の習得）

・靴の種類、構造、製法（製法別特徴、用途及び留意点）

・木型プロポーション（部位別名称、数値測定法公式）

・国際的なサイズ（フランス式・アメリカ式・イギリス式サイズ換算法）

・アップパーエッジの処理方法

・皮革（種類及び用途、なめし方）

・解剖学と靴のフィッティング（主要部位名称、足型の分類）

・各国の工場事情

- ②デザイン画作成
  - ・デザイン画の描き方の基本、正しいプロポーションの取り方
  - ・テーマに基づいたデザイン画10点作成
- ③靴種に沿ったパターンメイキング
  - ・ダービー、パンプス、オックスフォード、ローファー、サンダル、ブーツ、モカシン
  - ・靴種ごとに仕様封筒を作成（型紙、紙アッパー、ライニング、裁断型を作成、封筒に入れて提出する）
- ④ミラノコレクション見学：ミラノ市内新鋭デザイナー4ブランドの合同ファッションショー見学  
（Mauro Gasperi, Archivio Privato, Moi Multiple, Francesca Liberatore）
- ⑤コンペ用デザイン画作成  
テーマ：Gea Gomma社ナチュラルラバーソールを使った紳士靴、デザイン画5点提出
- ⑥工場見学：ミラノ市郊外  
タンナー（Bonaudo社）  
靴メーカー（Thierry Rabotin社）  
ヒールメーカー（Tacchificio Be Plast社）  
ラストメーカー（Formiticio Romagnolo社）
- ⑦卒業制作  
任意にラストを選びフリーでデザイン。デザイン画を基にアッパーとライニングのパターンを作成し、色素材を選び、各パーツを革で切り出す。縫製技術者による縫製の後、ラストに釣り込む。
- ⑧卒業試験
  - ・実技（ランダムに与えられたデザイン画からパターンを作成）
  - ・筆記（インターナショナルサイズの計算、靴種別パターン作成の公式、靴種の判別）

- ・面接（実技試験、筆記試験、デザイン画、卒業制作、授業内容について口頭で質疑応答）

### ⑨CEO面接

ARS入学のきっかけ、授業と学校生活の感想、今後の自身のめざす方向性について述べた。

## 3. 研修成果

イタリア、ミラノにあるARS 国際製靴学校で、約3ヶ月（平成24年9月3日～11月23日）靴に関する技術と知識の研修を受けました。海外で生活し、世界各国から集ったクラスメイトと共に授業を受け、さまざまな国の文化に触れ、大きな刺激と感動を頂きました。

国籍も年齢も多様なクラスメイト達とのコミュニケーションは、日本では味わう事の出来ない貴重な体験でした。

私たちは、基礎を徹底的に学び、毎日の研修生活を通して様々な刺激を受けることで、自らをより高めることができました。

学校はミラノ中心部から北東約2.5kmに位置しており、ミラノを象徴する観光地「ドゥオモ」や、『最後の晚餐』が展示されている「サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院」にはトラムで10分ほどで行くことができます。ミラノの歴史、ファッションを肌で感じられる素晴らしい場所です。学校と同じ建物にレジデンスがあり、集中して勉強することができます。

授業はパターンメイキングの技術習得を中心に、靴の基礎から実践まで体系的な内容で構成されており、イタリア語と英語の二言語で行われます。

第1週は簡単な自己紹介に始まり、靴に関する理論でした。動画や写真をふんだんに使った資料を基に、基本的な事項から最新の情報まで説明されました。日本とイタ



写真①授業風景 座学

リアとのちょっとした違いや共通項もあり、より知識を吸収できました。

第2週はデザイン画作成でした。まず靴の構造、パーツ、基本的なプロポーションの捉え方を教えられ、その後ランダムにデザインテーマが与えられ、異なる10種の靴をデザインしました。手法全般に、絵を見せるテクニックなど、細かい所までのこだわりを学ぶことができました。

第3週からはメインのパターンメイキングが始まりました。授業冒頭に先生が生徒全員を机の周りに集め、制作上の注意点を説明しながら見本のパターンを作成していきます（PCを使い、スクリーンに写して説明する場合があります）。生徒は先生の見本に倣って各自パターンを作成し、完成したらチェックを受けます。ARSでは靴種ごとに決まった数値やルールが公式として定められているので、経験が少ない人でもスムーズにパターンが作成できます。反復練習のようなシステムなので、腕を動かす時間が長くなるほど技術が体に叩き込まれるのを体感しました。応用の範囲も広く、基礎公式から自分で考え、それが形になっていくのを見ると、技術・知識が身についてきていることを実感できます。しかし



写真②授業風景 実技

ながら公式はあくまでクラシックスタイルのためのもので、ラストの多様化や複雑なデザインに対応するにはより高い技術と経験が必要だとも痛感しました。パターンメイキングはダービー、パンプス、オックスフォード、ローファー、サンダル、ブーツ、モカシンと靴種ごとに進み、アッパーだけでなくライニングも作成しました。第6週、7週、8週は進捗度確認のための「月曜テスト」が行われました。月曜テストでは見本スケッチを基に3種類の靴のパターンと仕様封筒を作成して提出しました。また、パターンメイキングと併せて適宜講義の補足も行われ、企画や生産の現場ですぐに活用できる知識も得ることができました。

第9週にはコンペが行われました。「ナチュラルラバーのソールに合う、クラシックとアバンギャルドが融合した紳士靴」がテーマでした。残念ながら私たちは最終選考に残ることができませんでしたが、自身のデザインを客観視するよい機会になりました。また、クラスメイトのデザインには大いに刺激を受けました。デザインと靴作りのバランス、奇抜なデザインと靴作成における縛りなどの線引きの大事さを見極める良い経験になったと思います。

クラスメイトは16名。国籍はイタリア、



写真③授業風景 裁断

アメリカ、イラン、インド、スウェーデン、スペイン、中国、ブラジル、ベルギー、モロッコ、日本。年齢は19歳から55歳。各生徒の受講目的・バックグラウンドは、裁断技師、工場経営の後継者、工場設立希望者、革バイヤー、ワークショップ経営者、インハウスデザイナー、フリーデザイナー、デザイナー志望者などです。先生が「これまでの中で最もバラエティに富んだクラス」と評した通り、国籍も年齢も経験も異なる個性的なクラスメイトたちでした。

同じレジデンスに滞在しているクラスメイトが多く、居残りして授業内容を教え合ったり、ホームパーティを開いたり、旅に出たり、買い物に行ったりとさまざまな時間を共有しました。拙い英語でのやり取りでは、語学向上の重要性が身に染みしました。また、クラスメイトのコミュニケーション力の高さに刺激を受けました。複数の言語を話せるだけでなく、授業中も積極的に発言し主体的に学び取る姿勢が強く、自らを表現したり発信する力が高いと感じました。今後もfacebookやメールなどで世界中のクラスメイトと交流し、相互に高め合っていきたいと思っています。

課外授業ではミラノコレクションのファッションショーを見学する機会に恵ま



写真④クラスメイトとのホームパーティー

れました。ライトに照らされたランウェイを歩くモデルたちを見て、改めて靴とファッションのつながりを実感しました。研修後半では、タンナー、靴メーカー、ラストメーカー、ヒールメーカーを見学しました。イタリアのタンナーは美しい革を作るという意識が高く、革の風合いや柔らかさは、高度な技術を持った職人の情熱から生まれるのだと思いました。ヒールメーカーでは、革の積み上げの裁断や、日本にない機械での作業など、既製品としてしか知らなかったヒール作りの流れを見ることができました。

約90日間という長い期間、靴・ファッションの本場で勉強させて頂き、技術面でも知識面でも一歩前に進むことができました。異文化交流により、日本人らしさや日本のよさを再確認する場面も多くありました。外国から見て日本人が優れているといわれる技術の高さ、繊細さ、デザインエッセンスは今後一層極めていきたいと思っています。また、学校外においてもヨーロッパの街並み、建築物、美術作品などを目の当たりにし、歴史や自然を体感できたことは、何よりの財産となりました。

今回の研修で得た体験を基に、自身の技術と知識を追求し続け、日本の靴業界の発



写真⑤高田研修生／リチャード先生／勝間田研修生

展に貢献して参ります。また、この事業が末永く継続され、多くの方がこの素晴らしい体験ができることを希望いたします。

結びに、この機会を提供していただきました東都製靴工業組合、東京都産業労働局、これまでARS派遣事業に参加された先輩方、所属会社の皆様に深く感謝申し上げます。